

交流・文化施設等整備検討委員会概要

1	会議名	交流・文化施設等整備検討委員会 専門委員会 美術館部会
2	日時	平成20年11月13日(木) 午後3時から午後5時まで
3	会場	上田駅前ビルパレオ 2階会議室
4	出席者	日端座長、伊藤委員、太田委員、滝澤委員、【欠席委員】土本委員、
5	市側出席者	石黒副市長、大沢政策企画局長、小菅教育次長、 宮川政策企画課長、伊藤交流・文化施設建設準備室長、中部文化振興課長、 若林交流・文化施設建設担当係長、徳田主任、藤城山本県記念館主任
6	運営支援業務受託者	室賀建築設計事務所 室賀欣一氏
7	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
8	傍聴者0人	記者0人
9	会議概要作成年月日	平成20年11月13日
協議事項等		
1	開会(大沢政策企画局長)	
	あいさつ(石黒副市長)	今日は、上田市の郷土の作家(山本県、石井鶴三、ハリー・K・シゲタ、中村直人(なおんど))について理解していただきながら、それらの作品が常設展示に相応しいものなのか議論をお願いしたい。
2	議事	
	(1) 郷土の作家による常設展示について	
	事務局:	(資料説明)なお中村直人の作品は、絵画や彫刻など19点が市に寄贈、97点が寄託されている。
	委員:	作品保護の観点から、全ての作品を展示するのではなく、保管と展示を交互に行う。
	委員:	版画は照明による劣化が激しく、100ルクスで約2か月、油彩は150ルクスで3か月が限界。
	委員:	全ての所蔵作品が展示されていると、いつ来館しても同じ作品を観ることになる。
	座長:	事務局で説明のあった4人の郷土作家は一般的な認知度が高いとは言えないため、これらの常設展示のみではなく企画展示も重要。
	委員:	これらの郷土作家は作品で圧倒するというより、彼らの思想や影響力が非常に重要であり、それらを表現する常設展示は必要。しかし一方で、大規模企画展示の際にはこの常設展示部分を有効に使用できる工夫も考えなければならない。
	委員:	郷土作家の場合は作品だけでなく、関連資料を展示することでより身近に感じられる。また、様々なジャンルの作品があるのでそれぞれの配置やボリュームも考えなければならない。
	座長:	ハリー・K・シゲタの作品は現在どのような状態か。
	事務局:	ほとんどがネガの状態であり、プリントは30~40点のみ。平成15年の展示の際には、市で約30枚焼き付けを行った。作品はデジタル化し上田市マルチメディア情報センターで保管中。
	委員:	本人が焼き付けを行うことで作品の価値が上がるということも重要。
	事務局:	本人のほか、シゲタの作品に関わりのある細江英公(えいこう)氏が焼き付けることで価値が上がるという点も重要。
	座長:	山本県の場合は現在の記念館が老朽化しており、新しい施設での展示により価値が上がる。
	委員:	山本県は「農民美術」や「自由画運動」、相撲通であった石井鶴三は「相撲」というキーワードだけでも全国コンクール規模の企画ができる。非常に可能性、タレント性のある作家。
	委員:	山本県の思想を拡大解釈すれば、エイブルアート(正式な美術教育を受けていない人の芸術作品)に着目し、東信地域で運動が盛んな、障がい者の芸術作品の企画展示も考えられる。
	委員:	交流・文化施設の「交流」の部分も非常に重要で、美術をとおして様々な交流ができるはず。多目的スペースをホールと美術館の中間に配置すれば様々な利用が可能。
	委員:	市の多くの文化財を保管するため、また博物館相当施設を目指す場合、収蔵庫の整備が非常に重要。そのスペースを確保するためには、美術にも音楽にも使用できる多目的スペースが重要。
	座長:	収蔵庫スペースはどの程度で考えればよいか。
	委員:	広ければ広いほどよいが、将来的なことも考えれば、せめて600㎡程度は必要と考える。良い

収蔵庫があれば、寄贈作品が集まってくることも考えられる。

委員：他市でもそうした状況が散見されている。

委員：アマチュア作家の間でさえ、信州には作品を保管できる場所が少ないと言われている。

座長：収蔵庫は必ずしも併設・隣接ではなく、別の場所に設置してもよいのではないか。

委員：美術作品は運送に非常にコストと手間を要する。また、企画展で作品を借りることなど、実際の運営を考えれば館内での設置が必須。

委員：収蔵庫を別棟で設けたために運営に困難を生じている美術館もある。

座長：上田市として適切な規模で収蔵庫を考えるということでしょう。郷土作家の常設展示のほか、企画展示はどのように考えればよいか。

委員：年に数回は大規模な企画展示は必要かと思うが、それ以外の期間には、児童や学生、地域ごとの市民作品展、また、地域ごとの市民所蔵作品展などを開催する。

委員：市民作品などの展示と年間数回の企画展示のみでも稼働率の高い美術館がある。この美術館は展示面積が 640 m²、市の人口は約 20 万人。別の例としては、1,200 席のホールと展示室、多目的ホールを持つ施設。ここで企画展を行う際は、ホワイエや多目的ホールなど全て使用し、期間中は館内全てが美術館となる。市内小中学生を招待し、作家と触れ合う機会も設けている。なお、この市の人口は約 8 万人。

委員：県内の市民利用としては県展が最大規模。開催には約 1,600 m²必要と言われているが、美術館をこの面積にしてしまうと、県展の期間以外の利用が非常に困難。県展の際には多目的ホールなどを有効に使うことが重要。

事務局：現在上田市でも、市民作品の大規模展示については、既存の文化施設の多目的ホールや会議室などを併用しながら開催している。

座長：交流・文化施設についても、予算とスペースが限られているわけであり、こうした有効利用を行っていくことが必要。

委員：郷土作家の常設展示スペースについても、企画展等の際には利用するなど弾力的な対応を。

委員：郷土作家についても、4 人に絞らず、またそれぞれのスペースを固定しないことで、柔軟かつ効率的な利用が可能となる。常設展示部分には、温湿度管理が可能なエアタイトのガラスケースがあれば理想的。

事務局：展示に必要な面積として、常設スペースを一部確保しながら、企画展示室、市民ギャラリーなどを合わせて 1,600 m²程度と考えてよいか。

委員：例えば松本市美術館の場合、恐らく企画展が行える最大面積として 2,000 m²を想定していると思われる。但し、実際には 1,500 m²規模の展示でも経費的・職員の人数的もかなり負担が大きく、個人的にはここまでの規模は必要とは思わない。

委員：市民アンケートの結果では、有名作家等の作品展示への希望が高いことから、ガラスケースなどの確保は必要。

委員：郷土作家の 4 人について、一般的な認知度が低いという話が出ていたが、先日、長野市で中学生 40 人に東山魁夷について尋ねたところ、1 名しか知らなかった。上田市でも郷土の作家を知らないことは当然なのかもしれない。むしろ、例えば山本鼎に主軸を置き、教育普及的な活動の拠点にすることでこれから知ってもらえることができるということ。

座長：文化行政として新しい美術館で何を創造していくか、市民に情報発信していくことが重要。ただ美術館を造るというだけでは市民の理解を得られない。

委員：交流・文化施設の「交流」の持つ意味として、「人と人との交流」だけでなく、子ども達が作品に触れることで、「過去と未来の交流」も生まれる。これはコンセプトとして重要。

座長：美術に興味の無い人のためには、もう少し具体的なコンセプトも必要。

委員：美術館では、何が行われ、何が観れ、何に参加できるのか、そうした「メニュー」を提示することで市民との距離が接近し、整備に対しても理解が得やすい。

委員：今、多くの美術館で「体験型・参加型」の事業が注目されているが、やはりこれらは重要。

委員：鑑賞を好む人、創造を望む人など、様々なニーズがあり、それらに対応することが重要。

委員：上田市の 4 人の郷土作家は、「体験・交流型」の、「広がり」を持ちうる素晴らしい作家達。

事務局：今後、体験・参加型の企画を展開するとしても、4人それぞれの常設ということではなく、例えば山本鼎と石井鶴三に絞るといことは考えられるか。

委員：山本鼎と石井鶴三の存在があって中村直人の作品が生まれたという背景もあり、また、上田市に多くの所蔵作品がある以上は、一定期間ごとに基軸となる作家や切り口を替えながら展示していく部屋が一室必要。しかし、作品の状態維持・保管のため、入れ替えながら展示することは、山本鼎、石井鶴三、ハリリー・K・シゲタそれぞれの顕彰館を期待されている熱烈な美術関係者の皆さんの理解が得られるかどうか不安。

事務局：予算の制約もあり、全ての要望を実現することはできない。そもそも常設展示を行うべきか。

委員：美術関係者の立場からすれば、「上田に来れば山本鼎を観ずには帰れない」、「もっと研究したい」という程のもの。「上田の駅を降りれば常に山本鼎の資料が見られる」という状態は必要。

事務局：今後長野新幹線が金沢まで開通し、上田市が全国展開を考えるなかで、郷土の作家がその「種」になり得るとの判断を皆さんにいただけるのであれば、やはり相応の施設にするということ。「体験・参加型」または「過去と未来の交流」というキーワードを作りながら、常設展示を行っていく、こういう方向が見えてきたように感じる。

委員：信州の鎌倉たる上田市には古い文化財が多く、郷土作家4人の展示を基本にしながらも、こうした文化財も同時に展示する。また、中村直人のご親族も現在は日本にお住まいであり、顕彰にあたってはご協力いただけるはず。「今は誰も知らない」ということは、逆を言えば「今後売り出す資源がこんなにも多くある」ということ。

事務局：市に寄託されている作品の取り扱いも至急確認し、展示についての判断を行っていく。この場合、収蔵についても考慮しておく必要があるが、収蔵庫に関する経費はどうか。

委員：建築・維持経費共に展示室より大きい。増築も困難なため、今から広めのものを準備すべき。

事務局：今日は美術館の基本的な部分を議論していただいた。上田市の将来を見据え常設スペースが必要ということでしょうか。

座長：今日の結論としては常設展示を行っていくということでしょう。市民の意向とは少し離れる部分もあるかも知れないが、美術館はこの常設展示部分だけではない。また、必要性を議論するために専門委員会があるわけで、ここで判断は重要な意味を持つ。今後は事業や維持運営費についても議論を行っていく。

事務局：次回は美術館の事業方針や施設構成についてお示しする。

(2) その他

事務局：次回は11/21(金)、(財)都道府県会館にて専門委員会を開催する。

3 閉会(石黒副市長)

熱心な議論をいただきありがとうございました。

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。